

オフィスにおける環境負荷低減

工場だけでなく、国内外を含めたすべての事務系オフィスにおいても、環境関連法規の順守はもとより、省エネルギーや廃棄物のゼロエミッションに取り組んでいます。

グリーンオフィス制度

富士通グループでは、事務系オフィスにおいても、グループガバナンスを最大限に発揮した環境負荷低減を推進するため、2007年度から「グリーンオフィス制度」を実施しています。この制度は、オフィスごとの環境配慮レベルや自主的な取り組みを総合的に評価し、3段階に格付けして「見える化」というものです(下図参照)。

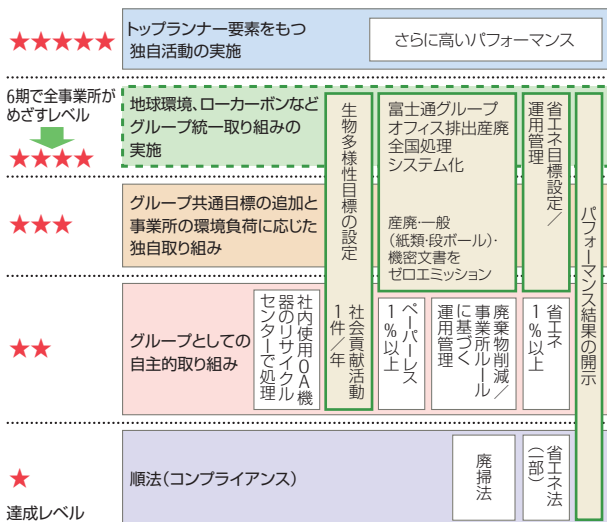
第5期環境行動計画では、この制度において、2009年度末までに国内のすべての対象オフィスで「二つ星(★★)レベル」以上を達成することを目標に掲げ、環境配慮の継続的な改善・向上を図ってきました。その結果、2009年度には、371拠点のオフィスすべてが三つ星(★★★)レベルとなりました。あわせて、国内最大規模となる371拠点での廃棄物のゼロエミッション[※]も達成しました。

2010年度からスタートした第6期環境行動計画では、「四つ星(★★★★)レベル以上」を2012年度末までにすべての対象オフィスで達成することを目標としています。四つ星レベルの条件には、従来の三つ星(★★★)に加えて「生物多様性保全活動」「ステークホルダーへの環境情報開示」「産業廃棄物処理のオフィス排出一元化」が設定されており、達成レベルも5段階となります。各オフィスでは、この目標達成に向けた活動を開始するとともに、オフィス共通の課題を討議する場を設けて、地域に密着した環境活動を推進していく予定です。

海外拠点については、2010年度から現状調査を開始しました。今後は、調査結果をもとに制度案をまとめ、トライアルの実施を検討していきます。

[※] **ゼロエミッション**: 産業廃棄物、紙くず類の処理において、単純焼却、単純埋立をゼロにすること。

グリーンオフィス評価制度の概要



活動事例

スマートコンセントの活用でオフィスでの消費電力削減

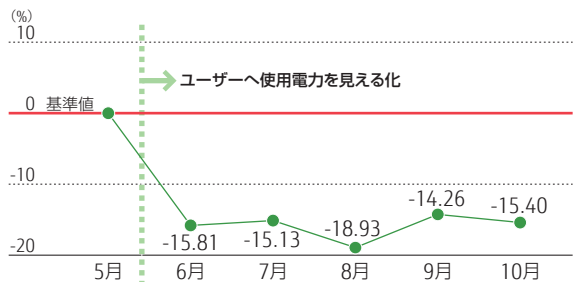
富士通の一部オフィスでは、2010年5月から、小型電力センサーを内蔵したスマートコンセントの利用の試行を始め、従来に比べて消費電力を月平均で約15%削減できました。これは、人や機器単位で使用電力を「見える化」することによって、こまめにパソコンの電源をオフするなどの個人の省エネ意識が向上したことによるものです。

スマートコンセントは(株)富士通研究所が開発した高分解能小形電力センサー技術を用いた電源タップであり、接続した機器の消費電力を検出することができます。これによって人や機器単位で使用電力のムダ、ムラを「見える化」し、業務の生産性を損なうことなく省エネルギー化を推進します。検出した値をパソコンで表示させたり、ネットワーク経由で閲覧したりすることも可能です。このスマートコンセントは、富士通コンポーネント(株)が、2011年4月から販売開始しています。



スマートコンセントとゲートウェイ

スマートコンセントの利用による消費電力の削減率[※] (1営業日当たり)



[※] 富士通の一部オフィスでの試行結果

オフィスにおける廃棄物削減

廃棄物の適正処理に向けた現地監査の実施

オフィスに共通する主な環境関連法規としては「廃棄物の処理および清掃に関する法律」があります。

富士通グループでは、ICT機器を中心とする産業廃棄物の適正処理を確認するために、社内ICT機器の処理設備である富士通りサイクルセンターならびに機密文書処理会社のセキュリティレベルの定期現地監査をグループ統一で確認する仕組みを構築、運用しています。1年に1回、富士通りサイクルセンターと機密文書処理会社の現場にオフィスの担当者と富士通の環境本部員が同行し、統一チェックリストを用いて書類および現場処理内容を確認しています。